

バストス週報

第三百九十九号
昭和卅一年
七月廿九日
発行

DIRETOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA

RUA PRES.
VARGAS 188
C. P. 112

BASTOS
C. P.

1957年
一月

100円
に値上

アナタの幸福のために

宗教の形式化と その打破運動と

七月七日夜聖市シネマチンが、生長の家教主谷口清超という方の講演があり、現場から中継放送されたので、偶然それを見ることができた。

名高い説教者というものは、そう沢山あるものでなく、吾々の記憶にのこっているのは、賀川豊彦先生など講演ではあつたが、ミジミと神の实体に触れてゆく力を登破された。今年三四月頃日本伝道をしたアメリカのカラハムなどという方も、えらい伝道者の方である。前者は科学の上から神を説き、後者は聖書から直接にキリストを説くといつた方である。

生長の家の人生観、社会観はキリスト教となつて、吾々の生活の中に浸透してゆくやうに思はれる。しかもその玄ふ所説くは、格別新しいとも思はれず、キリスト教の要所々々を捉えて再吟味するといつた程度であるが、その説き方に新発見がある。三幸程、徳久先生が演壇からバツ笑する、一見馬鹿々々しく見える説教の仕方が、実は何百年かかつて作り上げた形式的宗教の授教だったとすれば、其創意には敬意を払わねば居られまい。

其説教には、説教を扱わねば居られまい。其創意には敬意を払わねば居られまい。其説教には、説教を扱わねば居られまい。其創意には敬意を払わねば居られまい。

皆無といふので、い現象であらう。いやに深刻な顔つきで、囚人のやうな態度で平伏して居る。それが良いとか悪いとかで、罪悪意識に縁の遠い一般民衆には、よりつさにくいのは確かである。そういう存在の型を破つて、キリストの教も、シヤカの教も、人を大に教へたいものではないんか、といつて、爐側にこれをもちこんだのが、生長の家ではないかと思ふ。

何で、古くはなると型が、形式を重んずるやうになる。現に生長の家の家にも、教祖が、教主があり、**「真相」**の御親筆をおかむやうになる。世帯が、大きくなるやうに、門が、大きくなるやうに、主人は、大衆から神さま扱いを受ける。ア史は、縁送す、宗教の形式化は、人間世界の宿命であるかも知れぬ。

ALCAANTARA IMPERIAL



スタイル萬点丸山のフク

丸山洋服店

紺魚地のよく似合う方

わかもと WA KA MO TO



胃腸を丈夫にしなす
日本のわかもとで
のみすぎ、くいすぎは
健康の大敵！
わかもとで
守りましょう

老人もわかもとの
常用により
若さを
とりもどす
若い者願まけ

わかもと製造元
東京わかもと製薬株式会社
伯国總代理店 聖市ハリスマ
製薬会社

い。ついで前座が多くなつたが、谷口清超先生のお話は、表裏の通り、あなた自身の幸福の爲めに、は、お互に、人間の個性をついたもので、宗教さういふ人にも、充分興味をもつて、まける話である。七月三十一日、当バストにも、来られ、大同小異の説をなされるものと考へるが、御参考迄、大要を左に記して見る。

谷口清超先生のお話(七月七日)

生長の家は、どういふものであるか、皆さ人は、すでに御存じの通りです。今、徳久松士が、实例を以て、訪され、ましたように、生長の家は、正しい生活を説き、教へて、あつて、決して、六ヶ敷いことを、云うもの、は、あり

ません。世間では生長の家を指してあれは一体宗教なのか、何であるのかなどと云って居るが、従来の宗教は儀式だとかその他の儀式を本義の核にして居るが、ほんの他の宗教の役目は、そういう形式的なものではなく、人間とはどういう生き方をすべきか、いかなる生活が真実であるべきかを探求するものであります。キリストもシヤカも一生をかけて真理を探求したのであるが、それが年代を古くに遡って、それそれの形式を生むに至った。もちろん形式は大抵ですが、形式に流れると、真の靈を見失ふ。生長の家では病氣はないと教えて居ります。吾々が目に見る世界はかりの世界で、ほんとうの世界はありのままの世界ではないと云って居ります。月をこらんとない、三ヶ月に見えたり半月に見えたりするが、それは月の姿でなくして色々とかわった姿に見えるのです。人間の姿は満月のようではあるが、そのまゝに見えない。或は欠けたり病氣になつたりする。不良少年が居て、これがガンコに見える。しかしそれはそのまゝ、完全な姿ではないので、耳で聞き目で見ると、即ち道具を使つて、そう感じて居る丈であつて、人そのもののほんとうの姿ではないのであります。光というものは、百万の入りだとか七ミリだとか波長の光、それは見ることのできない物理学のさめた世界です。うつし世とか現象の世界という、現象にならぬ、あらわれの世界、たとへば、寫眞にうつた姿のように影の世界があります。何んもの比べると不完全で、ピンホケだとか色々のまぢが、いも登る。たゞ現われて、いるに過ぎないのです。人間の病氣というのも、人本来の姿ではなく、見て居る丈、その感じ居るをけだというの、生長の家の説き方なのであります。医者もいらん薬もいらんというのではありません。病氣は神の遣り給うた姿ではない。絶対の神を信じて、その完全な姿が信じられ、病氣などが不平はなくなり肉眼に見えない、感覚の世界が同じて来るのです。皆さんの考えて居る問題に、共産党がある。彼らも幸福と平和を願ひ、文化を創りたいと努力をして居るのだから、必ずしも人類の敵というわけでもない。すべて根本的な問題を、ついでに、いかに解決せん、にくむという問題に、して、敵をにくめとは考えられない。敵を愛する、これは中々できません。それは悪い、そのの在在を信するから、彼らの不良青年を矯正しようとする。彼らの心の中では、悪をみとめて居るが、心の世果が動揺する為めに、その生活を改善できなやという意であつたと思ふ。結果として出ていたものは現象、バの影であつた。

Sapataria Hayakawa

早川靴店



あはれ健康の台
フツは脚線美の台
タイは美しさがよし

クツノゴヨウメイハ
イツモ、ハヤカワ!

心の影、心の愛化、心が明るくなる。病氣の方が消えてゆく。これは医学に於ける新しい分野であります。胃潰瘍という病氣は昔は食いすぎから起ると考えられていました。最近の学説では心の懊悩の生活によつて起るといわれ、常分泌、即ちいう所の心の愛化です。これが脳髄感度を起し、脳下垂体よりホルモンを出すのが、立腹をする。一層之れが激しく胃潰瘍を起すもととなり、また之れは生理学の問題であります。医学の問題として究められて居ります。すべて心に於ては考えられぬこととあります。神聖作用、イラ、する生活不平不満の生活。皮膚の表面に血液がにじみ出て来て、バインキンの作用を起すことになり、つまり心が肉体の病氣を引き起すのであります。人の心は肉体に、つよく表はれるもので、肉体は恰も樂器のようなものです。即ち心とあらわす道具と、いって、心の中が活氣づくのです。腸も心臓も、いさゝくと、胃は消化を止めた分、泌物も止まらなくなると、心に悩みがあり、不満のある時、色々の病氣が起るのではありません。健康を望むならば、心を軽快にし、心は健康情態となるのです。林田景の人で、越前屋(末丸)という人がありました。長い同師核、腸結核で、せほそり、うらなりの胡瓦見たような人でした。その地方の生長の家講師で、佐々木と、いふのが、見舞に行つて、何というムツカシイ顔をして居るんだ、笑つて見ろ、といった。笑へるもんか、吾人なキヨウ存真似は、できんしと、病人が答へます。笑ふ練習をしなさい、依々木さんがすすめるので

越前屋は仕方なく翌日から笑う練習を始めました。大口をきいてワッハッハ、いりははじめた。それを見た奥さんが心配して、夫の気がへんになったのではなかつたかと思つたが、彼は毎日笑ひの練習をつけたので、ところがその笑ひが遂に肉体に影響を与えはじめ、心に影響を及ぼすに到りました。毎日そうして笑ひの練習をつつて行く内に、だん／＼体の工合がよくなり、一年の后には体重十五貫の健康を得るに到つたので、このような例は外に沢山にあるのです。

人間は誰でも神の心をもつてゐるので、暗い心であつてはなりません。私たちが心は信念の通りになるので、もう駄目だといふと駄目になつてしまふ。楽しいと思へば愉しくなります。希望する通りすはらしい世界になるのであります。生長の家では之を言葉の力といつて居る。珈琲が欲しい時、コーヒ下といふ念をすれば言葉通りになり、幸福になりたいと願ふは幸福になる。言葉の力ほどあつてもいはないので、ことばによつては、つまらぬ者になりつゝまらぬことになつてしまふ。私達はよく言葉の力を心から理解しなければならぬのであります。すはらしい日本なるかと思つてすはらしい日本となり、すはらしい健康をと欲すれば、そのなるのであります。

四国の高松の話ですが、Sさんという人の処へある奥さんが訪ねて来た。実にエーウツな表情をして、「私の夫は夜おそく帰宅しますが、かくし女があるのではなかつたかと思ひます。何とか行状をなす方法はないでしょうか」と訴へました。Sさんは「それならすはらしい方法をお教えさうか」と、家に帰つて紙にお書きなさい。内のおちやん誰か何といつても日本一、之を一日に五十四読むのです。一日位は効き目はない。一週間、十日、十五日といつていけば、だん／＼効き目がある。つまらぬ心と思ひながら、教つた通り実行しました。内のおちやん誰か何といふと日本一、一日三日四日とやつてゐる内のおちやんの顔が何となく生々としてきた。表情がかわつて来たのです。夫が帰つてくると、「おちやん、お帰りなさい。早く来たのね」とも言ひました。今後は夫の方が驚いて、こつそり裏口から、のぞいて様子を見ていました。奥さんは紙を取り出して、内のおちやん誰か何といふと日本一とやつてゐる。奥人はああやふほりさうだ、男の寫真でも眺めて、何やら一人ごとをいっている。

わい。こんなとは表面から堂々として来た。誰か何と云ふと内のおちやん日本一、あつたか。日本一の亭主頭が上りまぜん、遂に夜ふかし、女遊びさふつりやめてしまひました。この実例が示すように、多くの人が救われ居ります。ブラジルでも今や、つたら効果があります。言葉の力といふものは大きい。ことばが人生を作るものである。ことばによつて心の面に沁み込む作用、潜在意識となつて表面にあらわれ作用、心の種類に二つあります。無意識と潜在意識 (未完)

清起氏のお話には二時間を超える堂々たる大雄辯でした。或は笑わせ、或はしんみりさせ、四千五百人も入つた大聴衆を、咳一つさせないで思索の世界に引込んたゆくすかれた説教(講演?)三十六歳の若さで、かゝる若さが故の情熱と云うか、さういふ内自然と引き込まれていく。何と云つても大説教家の貫録という外はありませぬ。筆記では言葉の抑揚が表わせば且つラシスです。さあ、さあ、あつたことと思ひます。

Benzene → Yonemura para insecticida e Adulto

殺虫剤の用意なしにフランヌするものはムキヤクチヤでござります。ベンゼネックスをご用意下さい。御注文と同時に製造元よりアナタへ直送いたします。肥料も作物の種類により棉用・西瓜・野菜と區別してあります。



Magnum Singer マキナネックス マシンゼル 有名なシンセルマシンがお安く長期でお手に入ります。お求めなさるお客様の味方となつてお世話をするのは。

太郎田衛商店

七人の侍 対談会

映画というものは、見てから日がたつと感激がキハクになるので七月十日鑑賞批評会をやる事になっていたが、入植祭後の多忙と疲れで集る者たった五人、一純南子、見秋翁、三南天子、4春歩、5末音

ワレは感心せぬ

1 おどろいたね、少くとも十人は集ると思ってたが、これじゃ一つ穴のふじなばかりだ
2 まア仕方がない、これだけでやろうや、3 のみ会に似た方がよさそうだし、4 どうだね、おイナミツクって感心は？
5 皆があまりエエ、エエ、いうもんから、ちつと期待が大かつたせい、か、ほくは皆ほく感心せなんだよ
1 それはお前さんのノースイのかるりせ
4 いや無條件降服はせんぞ、どうも画面が暗いし、トキキは、はつきりせんし、戦いの場面以外はいくつをね
2 ワレはまた戦いの場面が長すぎると思つたよ、はじめの方で浪人同志真剣試合をする、ころがあるね、妙剣のかまを、あんな処がとて、印象の二つを、戦いの場面は一連にうに思はれる
1 いや会話をきいてみると、三四日の経過は判るね
感心したものは手をあふる

3 春歩はケイノウスイとして除外し、4 馬鹿をいえ、皆程感心せぬといっただけだ、手放しでホメてやれるかい。
5 尤も、大勢の見物衆の中には、面白うなかった、何だかさつはりわけがわからなかつた、またエエ方だ
1 ああ、う、映画になると、君の名し、鑑賞眼で見られちゃ、黒沢明も返くよ、2 物語りという程の筋がないんだから、3 紀南子先生、一つあの映画の構成を話し、てきかせろや
1 然らば、コリギレてきかせっかな、まア拙者が黒沢君になつたとして、あのあれは戦国時代の庶民生活の貧困と、戦に敗れ主を失い、疎にはなれた浪人が、いかに多かつたか、そう、う、た、た、社会の断層を、口マンでなしに、現実につながる人間を、以て表現して見せたか、た、んだよ、見物え、キヤン、く、ハラ、く、とは、ちが、つ、た、す、さ、ま、じ、い、も、の、が、感、じ、ら、れ、(下段)

會葬御礼

八女ヒト三儀七月十七日急病にて死去仕り、翌十八日午盾五時出棺バスト墓地に埋葬いたしました
葬儀に際しましては遠路御慰いなく御多忙中にも拘らず御会葬下され且つ御丁寧なる御香料御供華を賜わり御芳情の程厚く御礼申上げます
実は一々参上御礼の言葉申述べるべさ処甚だ失礼でございますが取敢わ紙上を以て御礼申上げます
尚不ラク製糸の方々及びいけ花社中御一同様の御厚情重ね重ねお見りにみ有難く御礼申上げます
一九五六年七月十九日

- 父 宮 武 勝
母 夏子
長男 節子
次女 策子
親戚代表 菅原 幸次郎
友人代表 中田 孝 支
落 龍 ヤス エ
三 野 善 一

各 位

御 礼
一 金 巻 封
右ハ御息女死去に當り追善ノ為メ當会ニ御寄附下サレ有難ク御礼申上げます
昭和卅一年七月廿三日
バーストス 佛 教 會

宮 武 勝 様
あの戦の場面が勿論クライマックスだが、あそこだけ黒沢君は半生の努力をかり込んだ
4 一寸まった、紀南子は、そういうのが、馬が、ま、り、り、を、引、い、た、り、す、る、の、は、西、部、劇、に、い、く、ら、も、出、て、く、る、黒、沢、君、の、創、作、で、も、な、か、ら、う、
1 おのれぬかしたな。だからお前さんは

ケイちゃんというんだ、ケイは軽だよ
 4 奈音さん、もう筆記しとるんか、ワルクケ
 だけは、やめて下さいよ、いかにもボクが馬
 鹿に見えるから
 5 ああよしよし、ところでこれはとこの
 作品をぬ
 1 東宝ですか、オリジナルは三時半で試
 写を見にいって批評家たちが、三時内半
 と書いてたワソリしたが見ていてたい
 くつしなかつたというから大したもんた
 3 脚本はたれだね
 1 橋本忍、小国英雄、黒沢明、の協力合作
 2 撮影はたれだね
 1 中井朝一だ、撮影賞をもらってている。
 2 音楽は？
 1 おやお前さん音楽わかんのかね
 2 これはごあいさつだよ、おとみさんな
 んか喋ったことねいだよ
 1 早坂文雄だ
 2 そんなら音楽学校時代のワスの後輩だ
 3 ワイツ、元れいことになつたが
 5 では皆感心することになりたね、何
 から始めるか、エレンコ(主演者)から

キヤストに異義申立

又誰か誰かをさつぱりわからんのか
 1 心細い批評家だ、島田勲兵衛、ホー
 ス頭になつた奴だ、あれが志村喬
 3 あり、好演技だ、堂々たる貫録が
 4 ホクは志村に失望した、もつと、どつし
 リして居ると思つた
 1 お前さんとと浪人して見やせんせ、
 米の飯ハラ一杯で命かけの仕事をやる
 浪人を、あれ以上堂々とやれ才さかい
 の志村は立派だ、先づあれが出てく
 ると一応安定感を受けるね
 1 中々やるね、志村の演技をほめないな
 んてどうかしらるよ、外にも色々出て
 助演やつているが光つてゐる、ことに今
 度のいい役だよ、香ンマが存くを
 つて、ホース頭に手をやって撮ることこ
 ろなんざうまいもんか(下段左へ)

カミニオン運搬業

ドラセイナルバスト間

マネイラ・セライス 糠 その他
 御注文次第、何品でも便利に扱います
 故……
 多少に拘らず御用命下さい

シヤーカーラ 富吉 吉

又は杉商店 気附

八月一日より

バストス病院にいよいよ待望の裏田
 ドトールが眼科医として乗り込ん
 くる、真下先生は今度はお供で助手
 ということになっている。
 外未寛者がどしどしやつて来るので
 旅館でも同業しようかと考えとる人
 もあるというから病院警備の程思え
 は恐ろしい位だ。

オ・クルースで柔道個人試合大会

去る七月廿二日オ・クルース道場で柔道個人
 試合大会が開かれた、フロリス、ルセリア
 オ・クルースにバストスの諸道場からバストス
 は佐藤、杉、榎原三道場より數十名が出
 場し龍護虎搏の熱闘を展開し、バストス
 強しの名を博した。

ドツクメント ペルネ

しました

○カルタナショナル(自動車運転免許証)
 ノホル・マツモト M O B O R U M A T S U M O T O
 トツパ警察署発給
 ロンヤペのドクメント(バストス警察署発給)
 カツパ入りのオ、紛失しました、拾つて
 下さった方には御礼いたします
 重道商店まで御届け下さい
 松本 昇

ウーバの砧木

ウーバは砧木が大地
 心存じの通り ウーバは砧木が大地
 です、ジュンジヤイ産の優良種
 ソルタカバロ種
 おわけいたします

クロリアー 篠條崎長五郎

又はコチア倉庫 畑中さん迄申込下さい
 (一本 2 串 5 串)

1 次は木村功の勝回郎はどうか、一番若
 い侍だ、津島恵子と恵仲になるあれだ、
 3 悪くはないな
 4 近代人見たいなナ
 1 あたつた、ホクもそれを言はうと一
 いたんだ、しかし批評家は好技とい
 へばめていね、あのホクネンジンにま
 じつについて、一種かわつた句を出してい
 る。(紙面の都合で次号へ)

私のイモ作り

半作がお奨めする
バタタドーセのこと
ウニオン小野山生

我々養蚕移民もバスタスへ参りまして
早や二年、義務農年も無事に了え、気の
早いものは聖市郊外へ移立ったものもあ
ります。土でいっただけの四家族、残るは
八家族、残道車から見てもよそより大変
成績がよろしい。これは谷口さん、崎田
さん始めバスタスの方達の一方なりぬ御
配慮と御指導によるもので、入植當時を
かえり見、一同深く感謝して居る次第で
あります。二年たったから俄に一人前に
なつた訳ではなく、これからはより一層
皆様に御鞭撻を御願ひ申さねばなりません。
人、私たちが良い隣人である様努力を
早くバスタスの安定の爲めにつくすよう
になりたいと望んで居ります。とうか此
後とも御後援いただけますようお願いが
いたします。

養蚕家として多難だった本農年最後の
蒔出しが丁度入植祭の前日にあたるとい
うので家内中あれこれと忙し相成した。
上の子供は展覧会に出すのどといつて出
品物を早目に揃えた様ですが、当日搬入
の朝カロツサを仕立ててかう大事なものが
皆ホルコと鼠にやられ居ること判つ
て一同大あわてにあわてました。桑園か
らつれもどされた親爺といえども一時間
に五品の出品物を揃えることは大変で、
大根は太すぎ、小さいものはそろわず、
バスタドーセも二株の中から新に選ぶの
にいい加減なところを同に合せました。
尚茄子や唐辛、その他心づかりのものも
あつたようですが遂に機会を失ふ結果と
なつてしまいました。
ウニオン高地は井戸も四十米もツカも
ひとい土地ですが昨年作つた聖護院が余
り文脈をうたひたので一今今年作り断り
菜も出さないといふ所して居る方に、こん
なでもできますから自分のためるものは
自分で作られる様にと思つたのが野菜作
りの勤めとなりました。
昨年セツカに南瓜を植へ畑中さんに薬
草と数わり十月にそのすき間に甘藷を植
え、それを二月に収穫後、三四月に植へ
た大根等が品評会に同にあつたもので、
谷間に植へたアトリヨ、バタタドーセも時期
外れではあつたが病氣も出ず、並の出未
でした。本年ここで一農年四毛作可能で
した。あと十月迄にソバが出来ないか
次頁上段へつづく

香川県知事来植

去る七月十七日香川県知事金子正則氏が
来巴されたので、かねて果人として歓迎準備
中の三野藤次郎氏の世話で十七家族の家長
等相寄り、池田旅館をバンケットを催し
た。金子知事は北米に招待を受けてその
帰途スラジールを訪問したもので、いはば
身銭を果人を慰問の爲め奥地に杖をのぼ
したものである。四十九歳というが一見
三十台にしか見えぬ若さで、且つ検事出身
に似ず、態度柔らく明朗な感じのする紳
士の、バスタスの様子に耳を傾け、日本
の事をこ回はるる事、に仔細に説明する
好印象を与えたことである。

敬老会に招待されて
新津 牛丸
老いたるを敬ふべし
沖現けれの尊くあるかな

バスタス劇団より御礼

去る七月七八日バスタス入植祭演芸
會に當りまして左の方々より多大の
御礼を頂きました。厚く御禮申上げ
ます
七月十五日

バスタス劇団

- 橋本 養種場 様
- 小茂田 吳服店 様
- 穂井 田一男 様
- サハリ口 田池 様
- 中央 宮野 様
- バール 水口 様
- 南木 劇場 様
- 高橋 節 様
- 木内 萬 様
- 諸角 手吉 様
- 能見 利八 様
- 宮崎 安真館 様
- サトハス 壁谷 幸雄 様
- 佐々 木 様
- 池内 藤茂 様
- 古沢 市次 様
- 福滝 朱実 様
- カロリア 村山 様
- 山内 武彦 様
- 小西 倉 様
- 河西 静男 様
- 山中 陽之助 様
- 梶田 田 様

先日宮野さんの甘藷を見学しました。構想といい出来栄えといい又管理上の頭

のよきにも皆感心させられ得るところが大きい。私も昨年と今年と二年ついでに作って見ました。

作柄は先輩の方達には到底及ばない。二十数頭ある小豚を蚤の忙しい数日間芋畑に放飼するので小芋や葉を食いあらし

夢の枯れたところもできたりで満足な成績は上らないと思つていました。三反歩作つて見る中の長さ百米の畦を昨日堀つて見ました。商品となるものが三百五十キロ、ウネの両側面は一月程のち堀るつもりですが全体で四百キロ以上確実にとれます。



讓 鮮魚店

最良のホントで目下盛業中。製氷機付バルコン、フリゴリフコ、及ホジット用冷蔵庫等一切完備

右 転業の為のゆづりたし
委細 御面談
パール 柳 浦

キカイの据付と修理

○どんなキカイでも故障がありましたら私に見せて下さい
○キカイ類の据付をなさる時はご相談下さい
○仕事の大小を問はずすぐかけつけます



バンネイランテ 山中 正 夫

北島研三ドクターが高岡昇太郎伝士に「僕は北米から農学雑誌をとりよせているが自蒸苦茶にホロコに食わせているあのミリーヨから七十幾種類の高価な製品が作られていて」と語られたことは三十年昔の話ですが、今も尚生きてゐる話がお互いに耳の痛りことです。

芋作のつがき
 段々頭もうすくなつて三本と二本が大半たりなくなつては、牛は牛連れ同行の方と連立つて面白くやつて行き度いものです。
 外の熱帯有用植物も当地の様を如く適地としてゐるものもあり、その中将来性のある経済植物を栽植企業に持ちこむことの可能性について、二年の月日は得るところは多かつた。しかし我々の採新移民は、今のところ経験と資本の蓄積段階にあるので、色々の事情を総合考慮して、狭い区域を集約的に使うこと、一つの行き方と考へるのです。
 また色々つづまらぬことをやり、かては、ミラー取りがミラーにならぬ様、本農年は蚕を一生懸命にやり、バトロンや皆様の御期待に沿ひ、送り出してくれれば、郷党へも顔のむけられる様致したいものと思つて居ります。(了)

バストス短歌會報

バストス短歌會では七月十五日午後一時より佐伯町絵居に於て第六十八回例会を開催した。出席者、吹本菊子、渡部千工、山本一男、森重羊鈴、森重枝美、佐伯咲絵、又席役、藤田中霜月、井速視、山本和枝、工藤魚精、得点、枝美、千工、速視、以下略。

戦後派的青年と刻印押されたる
 彼の未来に侍なきか

枝美

娘のかへり邊きを夫がくり返す
 つある不安をかき立てる如

千工

谷川の氷澄み冷ゆる黄昏に
 寒さ 語りの泥手を洗ふ

霜月

聖市より訪ひし孫は親を恋ふ
 事すら忘れ猫と遊べり

一男

読書好きか母とを故の従しきか
 今日又店に一人来て読む

和枝

千コナコの翔り代り来て裏庭の
 はせしざくろを啄みて居り

菊子

償う術なき吾が失策を苦に病みて
 食慾もなき幾日か過ぐ

速視

いか程も使はず古びし藤椅子が
 裏庭隅にて冬陽に曝さる

羊鈴

しみじみと感傷にひたる刻持を
 身一かつたよりに今日も生きた

咲絵


棘のある花とは知れど紅をうが
 散らさず手折る術もなきか

魚精

サウー天区開植記念祭

月日のたつのは早いもの、サウー天区が開植祭を、盛大にやると大いに気焔をあかすことになった。行事としては同区の花七者慰霊祭、自治功労者表彰、草介入植者への慰高給者の敬老会などがあり、牛頭の大、ジュラスコ会をはじめ、青年の運動会、夜は二十四の瞳をとりよせて公開という賑やかなものがある。
 バストス厚生のアモストウを見せる人々と、長はじめの役員さん、区民一同大はりきりとはたのしい限り。

NOSSA RELOJOARIA
 AV. TAMOIOS, 785 TUPA CX 146



眼の健康の爲めに
 医師の指定した
 眼鏡をお用い下さい
 眼科医のレセイア
 なら、かんや
 眼鏡でも
 調整いた
 します

信用ある
 時計店
 ツパン一の
 時計店

ツッパン市 アベニダ 七八五
 ノッサ 時計店

野菜店

開店おしらせ

私こと皆様の御親功を御すすすめに依り、パール水口さまの隣りに、ささやかなキタンダを開きました。
 商賈に経験がございませぬので皆様に御満足を、いたたくような品を揃えることも、どうかと心配して居ります。何卒亡父亮 在世中と同様御厚誼を賜わり、御引立下さいます様伏して御願ひ申上ります。

パール水口さまのとなり

キタンダ

永松みよ子

バストスのみなさま

(nº 12) Continuação

SEM FALTLIA

-Hector Malot-

A terceira pancada que ele desse com o pé, termel-a feito lembrar. No momento preciso estendeu-me a pata e introduziu-me ao pé do General. Este, vendo-me, levantou os braços com ar desconsolado. Pois que? era aquilo o criado que lhe apresentavam? Em seguida veio examinar-me de perto e por todos os lados encolhendo os ombros.

A cara que ele fez foi tão engraçada que toda a gente desatou a rir; tinham percebido que ele me tornava por um perfeito imbecil; e era também esse o sentimento dos espectadores.

A peça já se sabe, estava feita de maneira a mostrar essa imbecilidade por todos os lados; em cada cena eu devia fazer alguma nova parvoíce, enquanto "Joli Coeur", pelo contrario, devia achar occasião de desenvolver a sua intelligencia e a sua habilidade.

Depois de me ter examinado, o General, cheio de dó, ordenára que me servissem o almoço. O General julga que quando este rapaz tiver comido será menos estúpido, dizia Vitalis, vamos a vêr isso.

E eu sentava-me enfrente de uma mesinha que estava posta, com um guardanapo em cima do prato. Que havia de fazer com aquelle guardanapo? "capi" fazia-me sinal para que me servisse dele.

Depois de ter pensado muito, assuei-me a elle. "Capi" caiu com as patas para o ar, confundindo pela minha estupidez.

Mas onde, as suas manelras finas produziam um efeito irresistivel foi quando, acabado o almoço, ele pediu um palito e passou-o rapidamente por entre os dentes. Os applausos rebentaram de todos os lados e a representação acabou-se no meio dum triumpho.

Na volta para a estalagem, Vitalis disse-me uma amabilidade, e eu já era tanto ator, que fiquei orgulhoso com esse elogio.

Eram de certo actores de talento os que compunham a companhia de signor Vitalis, - estou falando dos cães e do macaco, - mas esse lento não era muito variado. Depois de term dado três ou quatro representações conhecia-se todo o seu repertorio: não podiam fazer mais que repetir-se. Daí resultava a necessidade de nao ficar muito tempo numa vila. Tres dias depois da nossa chegada a Ussel, tivemos pois, que nos por outra vez a caminho. Onde íamos?

Eu tinha já bastante confiança com o meu amo e mestre para lhe fazer esta pergunta.

- Se eu te disser, continuou elle que vamos a Aurillac para nos dirigirmos em seguida a Bordeus e de Bordeus aos Pyreneus, o que ficas sabendo com isso? - Nunca aqui vim.

- Mas o senhor conhece então as terras? - Olhou ainda muito tempo para mim como se procurasse em mim alguma coisa.

- Não sabes ler, pois não? disse-me elle. - Não.

- Sabes o que é um livro? - Sei; levam-se os livros á missa para dizer as orações quando não se reza pelas contas vi muitos livros e bonitos alguns, com figuras dentro e couro por cima. - Bom; então comprehendes que se podem pôr orações num livro?

- Comprehendo.

- Também se lá pode pôr ainda outra coisa. Quando ouvião, e que do teu ouvido se foram juntar no teu espirito para voltar em seguida á tua lingua quando os livros, rezas o teu rosario, dizes as palavras que a tua mãe te pos não tiram da memoria as palavras de que essas orações se compõe; mas, tiram - as com os olhos dos livros onde foram postas, quer dizer, que lêem.

- Já vi ler, disse eu, no tom soberbo duma pessoa que não é tola, e que conhece perfectamente aquillo em que lhe não falam.

- O que se faz com as orações faz-se com tudo. Num livro que te hei de mostrar quando descansarmos, vamos encontrar os nomes e as historias das terras que atravessamos. Homens que habitaram ou percorreram essas terras puseram no meu livro o que viram ou estudaram; tanto que basta-me abrir esse livro e lê-lo para conhecer essas terras, vejo-as como se olhasse para ellas com os meus olhos; aprendo a sua historia como se me contassem.

Eu não tinha aprendido absolutamente nada na escola, nem ao menos as primeiras letras.

- Ler é difficil? perguntei a Vitalis depois de ter andado um grande bocado refletindo no assunto.

(continua).-

